

1. ああ、あなたが天を裂いて降りて来られると、山々は御前で揺れ動くでしょう。火が柴に燃えつき、火が水を沸き立たせるように、あなたの御名はあなたの敵に知られ、国々は御前で震えるでしょう。私たちが予想もしなかった恐ろしい事をあなたが行なわれるとき、あなたが降りて来られると、山々は御前で揺れ動くでしょう。神を待ち望む者のために、このようにしてくださる神は、あなた以外にとこしえから聞いたこともなく、耳にしたこともなく、目で見たこともありません。(64:1-4)

- a. イザヤ 64 章は神が降りて来られその力強い御手でとりなして下さるようにとの願いで始まる。私たちの多くはこの感覚は理解できないかもしれない。私たちは居心地の良い生活に慣れていてももちろんそれは感謝すべきことであるが、ただ神にお会いしたいという安易な気持ちではなく、心が張り裂けるほど悲痛な思いをもって神に来ていただく必要を感じる時というのがいつか来るであろう。
- b. イエスの再臨は私たちすべてが待ち望むべきことである。終わりの日には神などいない、ましてや神が来られるなんてと嘲り笑う者たちが現れるが、私たちがイエスの再臨に希望を置かなければ間違った所に希望を置いてしまう。私たちは大きな期待をもってイエスの再臨を待ち望むべきである。
- c. イエスが戻られる時には誰の目にもそうだとわかるはずである。そしてその時には彼を待ち望んだ者たちのためにイエスは行動を起こして下さる。

2. あなたは迎えてくださいます。喜んで正義を行う者、あなたの道を歩み、あなたを忘れない者を。ああ、あなたは怒られました。私たちは昔から罪を犯し続けています。それでも私たちは救われるのでしょうか。私たちはみな、汚れた者のようになり、私たちの義はみな、不潔な着物のようです。私たちはみな、木の葉のように枯れ、私たちの咎は風のように私たちを吹き上げます。しかし、あなたの御名を呼ぶ者もなく、奮い立って、あなたにすがる者もいません。あなたは私たちから御顔を隠し、私たちの咎のゆえに、私たちを弱められました。(64:5-7)

- a. イエスの再臨の際には神の裁きがある。一般的に神の審判は教会ではあまり取り上げられないし、私たちにとってもできれば避けたい話題かもしれない。というのも今は恵みの時代であり、愛の律法が最も強調されているからであろう。
- b. 私たちはみな神の期待に沿うことができずまた神の義を受けるには程遠く、私たちの義は不潔な着物のようである。私たちがみな不潔な着物なら誰が他人の欠点を指摘できるだろう？
- c. イザヤが問うように、それでは私たちはどうやって救われるのだろうか？ どうしたら私たちが通らねばならない裁きを回避できるのだろうか？ 神は大きな愛をもって私たちを救うために御子を送ってくださった。そして私たちを神の子どもとしてくださり信じる者のうちに聖霊を宿してくださった。私たちは聖霊によって良いものと悪いもの、正しいものと間違っただけのもの、神の恵みの中に生きている者と神の恵みを不品行のために使っている者とは見分けられるようになる。
- d. 私たちが人生の中で罪を野放しにするとここでイザヤが告白していることが再び起こり、神は御顔を隠し私たちは罪へ引き渡される。サタンのもとへ引き渡されるのは悲惨なことだが、神は私たちを再びご自身のもとへ引き寄せるためにあえてそれを許可しているのである。

3. しかし、主よ。今、あなたは私たちの父です。私たちは粘土で、あなたは私たちの陶器師です。私たちはみな、あなたの手で造られたものです。主よ。どうかひどく怒らないでください。いつまでも、咎を覚えなさいでください。どうか今、私たちがみな、あなたの民であることに目を留めてください。(64:8-9)

- a. ここで神が陶器師だと言っているのは、私たち自身が良いことについても罪深い面においても何もできないとか、すべての善悪の行動は神が完全にコントロールしているとか、ということではない。むしろこれは粘土がその造り主に形造ってもらい、咎を覚えなさいでくださいとねがっていることだといえる。
- b. 神の子どもとされることは何という特権だろう。私たちは何という恵みのもとに生かされていることだろう。イエスを待ち望むということは何というすばらしい希望だろう。